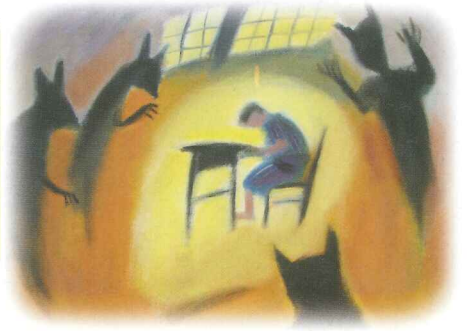


讓治が生まれ、生涯愛した島田

讓治は岡山県御野郡石井村島田(現在の岡山市北区島田本町)で生まれました。生涯、ふるさとを愛し、作品の中にその思い出を数多く残しています。



「獣の学校だ。」
そう思って先生を見ると、なんと、さっきよりいっそう先生が獣らしくなっている。耳がとて大きくなり、口が倍にもひろがっている。目の恐ろしさ。
お化けの世界

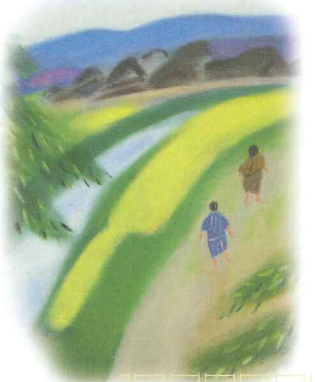
「おじいさん。」
「何だね。」
善太はニコニコするきりで、何も言わない。然しその顔を見ていると、お爺さんもついニコニコせずに居れなかった。
子供の四季



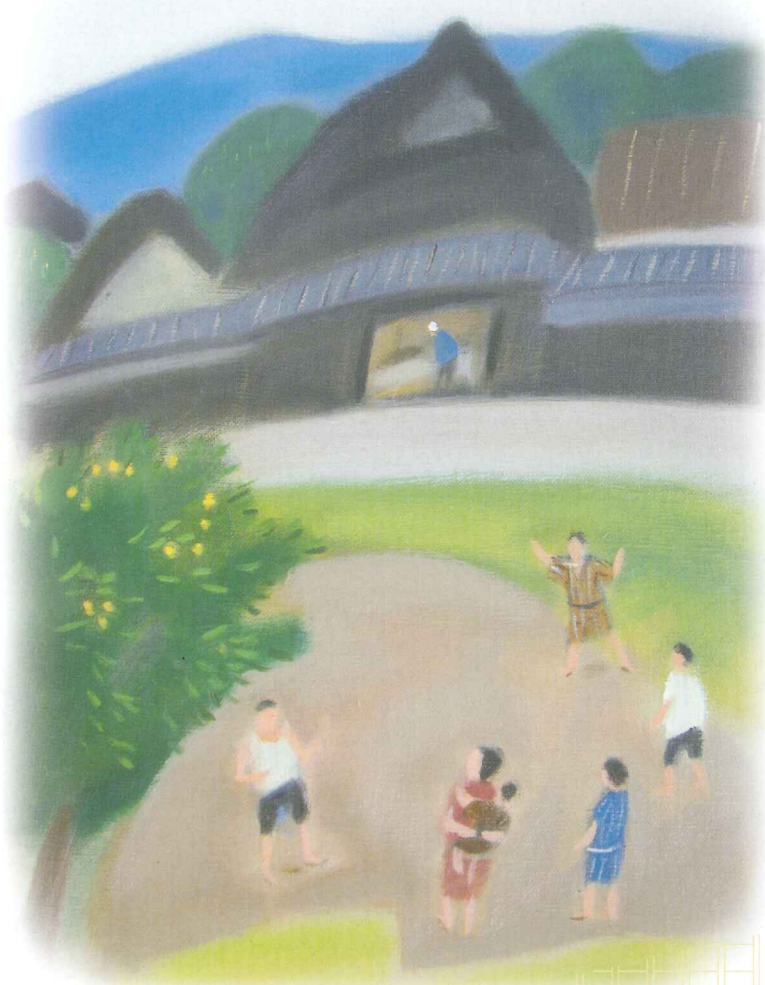
わたしはくやくして、いや、ドンコツがかわいそう。いつまでもなみだをこぼしていました。
ドンコツの最期



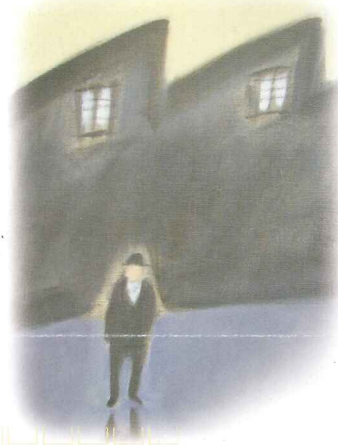
この教室の床の下に、いたちが巣を作っている。そして子どもを何びきか生んでいる。学校に住んでいた。



「この川でう、お爺さんは四尺もある鮭をとったことがあるんだぞ。」
甚七 南西風景



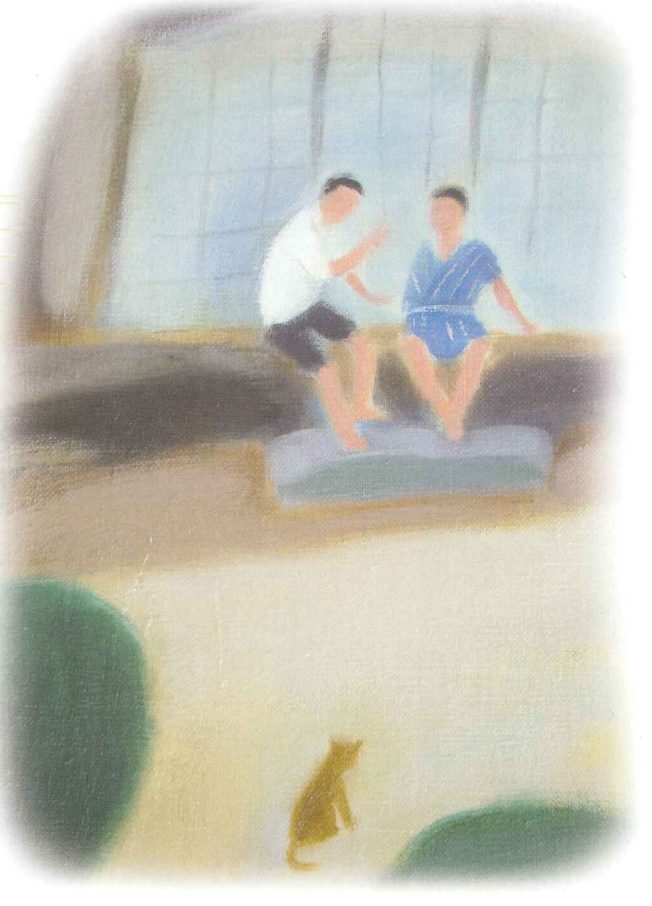
白壁の土蔵、茅葺の大きな屋根、築地の堀に、屋根のある門、クルリと廻ると、正太の家。
正太の家の家、正太の家をめぐる



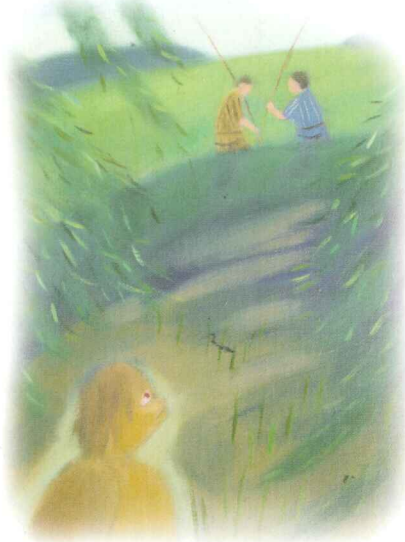
「お父さん、会社やめたの？ こんな会社なんか、いらないうや、ねえ、新しいのつくればいいや。」
風の子供



兄ちゃんが心配してしょうが、二十びきばかりももって、とくとくかえって、いっくのはいい気持です。
ハヤ



「嘘なもんか。そんなこと言っと、三平ちゃんだって、直ぐ蝶にしっちゃまうぞ。」
これを聞くと、三平がかえって喜んでしまいました。
「うん、蝶にしてよ、すぐしてよ。僕、蝶大好きなんだ。」
魔法



ふと気がつく、そのかげろの中、頭に毛をほうぼうと顔のかくられるほどはやした、はだかの子どもがおるのです。
かっぱに
出会った話



おなかをすかせて、その橋のところに帰ってきて、父のエヘンを思い出して、わたしもエヘンエヘンと、大きなエヘンをやって帰ってきました。
エヘンの橋

善太が思い切って呼んだ。
「やい、三平。」
「何だい。」
この声とともに、二人は取りくんだのである。うれしさはすかさずのやり場は、これ以外になかった。
風の子供

※地図・絵の無断使用・転載はできません